

マザーハウス

たより

**あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。**



絵：エイルさん

2024

6

月号

- | | |
|---------------|---------------|
| 2 理事長挨拶 | 14 健康相談窓口 |
| 4 塀の中のたより | 16 福音たより |
| 10 マザーハウス卒業後 | 22 HAPPY DAYS |
| 12 ささきみつおコーナー | 23 お知らせ |

理事長挨拶



初夏から梅雨に移るころですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は一年で初夏が最も好きです。春よりも力強い生命の息吹を感じつつも真夏のように暑すぎず、過ぎやすいからだと思います。

ところで、マザーハウス運営状況は、変わらずに非常に厳しいままです。しかし、もし仮に、正会員の方だけでも、毎月500円から千円(手数料含まず)ご寄付いただくと、運営の厳しさは、一気に改善される状況です。まとまった金額のご寄付は非常にありがたいのですが、少しずつご継続いただくご寄付や、定期的なコーヒーや紅茶のご支援は、それ以上にありがたいものです。恐れ入りますが、ご理解くださり、是非ご協力いただければ幸いです。

さて、私が「理事長挨拶」を行うようになり、ちょうど一年になります。その間一貫して愛を語ってきたと思いますが、最近、複数の人からこのような指摘を受けました。「あなたは、愛がすべてを解決するようなことを言いますが、私は愛により傷ついてしまいました。」というような指摘です。そして、それは、どの場合かということ、幼少期に歪んだ愛を受け、傷つき今もそれを引きずっていたり、その影響が対人関係に今も多大な影響を与えていたり、自分が愛しすぎて、相手を独占したい思いが強すぎ、それがきっかけとなって過去の犯罪に大きく関わっていたりす

るなどです。

これは、辞書的に言えば〇〇愛という表現でよく使われますので、愛の括りに入れてしまう人が多いのですが、マザーハウスの考える愛は、それとは異なります。私たちの考える愛は、新約聖書の愛を基準としています。具体的には、こう書いてあります。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。」(コリントの信徒への手紙一／13章04～08節)

歪んだ愛とは、私たちの考える愛ではありません。それは、独占欲であり、妬みであり、性欲であり、すべて自分を満たすためだけのものであり、私たちの考える愛とは相反するものです。私たちは、この「愛」の軸がブレないようにならなければならないのです。

さて、今でもたびたび「戦わずに愛し、裁かずに寄添う」ということをこの紙面でも申し上げてきたと思います。戦わずに愛するというのは、分かりにくいので説明する機会には割とあります。例えば、戦うとは、反論してきた相手は正論で論破し、正しいのだから認めろと主張したりすることかと思えます。対して、もしその正論が非の打ちどころがなかったとしても、その正しさよりも、それによって相手が傷ついたり、恨みや復讐心を抱くことを良しとせず、

理解してくれるまで愛から出る忍耐によって、一緒に正しい方に行こうとするのが愛です。

それと比べると「裁かずに寄添う」というのは、分り易そうです。裁くとは間違いを指摘したり、他人の行いを自分の基準で評価したりする（客観的基準もそれを客観的と判断しているのは自分ですからここでは同様です）ことです。それをしないで寄添うということだから、分り易そうです。ところが、これを外国人に説明しなければならぬ機会がありました。彼らは、非常に日本語の会話に長けており「寄添う」という言葉は知っているのですが、ここで言う意味は、説明しないと理解できません。そこで私自身この「寄添う」ということを深く考えていないことに気付かされました。寄添うとは、「もたれかかるように側による」というような意味ですから、相手の立場になって考えるということかとも思いましたが、「自分がその立場の時（であれば）できた（できる）のだから、普通できるよね、だからやって！」というような考えが出てきます。この考えによって多くの人が潰れていくのを私は見えています。このような考えは重荷を背負わせるだけで、指一本貸さないのと同じです。そこで、立場だけではなく「その人そのものになる」という考えにいたります。もちろんその人にはなれません。自分の考えや経験による価値観を捨て、その人の考えや経験による価値観になって考えるところかかと思えます。これは、マザーハウスのスタッフや支援者の方が受刑者に対してそうするべきだというだけ

ではありません。私は、以下のような希望を持っています。それが、受刑者や元受刑者が社会復帰し、再犯防止につながる最も重要なことだと考えるからです。

1. 受刑者は、社会の人のようになって、なぜ社会の人はなかなか元受刑者を受け入れてくれないのか考え、どういう自分が受け入れられやすいかを考える。

2. 刑務官は受刑者と社会の人のようになって、どうしたら社会が、元受刑者を受け入れやすい更生システムができるか考える。

3. 社会の人は、受刑者と刑務官のようになって、更生システムや、どういう社会であれば、再犯が起きないか考える。

その結果が、前回の挨拶で紹介しましたノルウエーの司法改革で一部確認できます。

最後に、マザーハウスはすべての人のようになって考えるということでした。それは一人でも多くの受刑者が社会復帰し、再犯せず、被害者の出ない平和な世の中になって欲しいからです。誰とも敵対せず、互いに寄添うことで一致しましょう。それには、コミュニケーションをとり、互いを知り、尊重し合う必要があるでしょう。寄添うとは具体的な愛の形です。それが、すべての近道だと信じます。
アーメン

塀の中のたより

文通交流の奇跡

K刑 Nさん

私は今現在K刑務所に在監中です。MLP（マザーハウスの文通プロジェクト）で文通ボランティアの方と文通を続けさせてもらって、キリスト教のことや社会で普通に当たり前に生きることの大切さなど色々深く学ばせていただいております。私がマザーハウス会員となって早いもので今年で9年程となりますが、理事長はじめスタッフ様のおかげで孤独から救われます。私が以前M刑務所から出所して次の日直ぐに出所報告の連絡を電話でマザーハウス事務局にしたところ、対応して頂いたスタッフの方からとても温かい言葉をかけてもらい人間関係の温もりを感じました。そしてMLP文通ではボランティアの方からとても温かいお手紙をいただきまっとうに生きて行く大切さを学ばせてもらっています。

今から5年目の話になりますが、私はMLP文通でOさんという女性の方と文通をさせていただいておりました。私はこの方を一生忘れることは



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。

ないと思います。このOさんと言われる方は、もう天国へ旅立ってしまった母と同じ熱心なカトリックのクリスチャンの方で毎回とても優しく分かり易くクリスト教の学び方をまるで母と文通しているかのように教えて下さいました。天国へ旅立ってしまった僕の母との思い出をじっくり聞いてくれてすべてを受け止めてくださいました。この方は、母にどこか似ているところがあつたり、母が生前熱心に通っていたキリスト教のシスターにも似ているところがあつたり、とにかく深い優しさのある方でした。私はこの頃まだ暴力団という組織に属していましたが、その属していた暴力団組織から足を洗い暴力団をやめるきっかけとなったのが、このOさんとの文通でした。

Oさんはこの暴力団という落ちぶれた私と分かったうえで何も言わず優しく文通を続けて下さいました。普通なら刑務所にいる暴力団の男と文通など避けられてしまうようなことですが、この方は違いました。そしていつも私にこう言ってくれました。「あなたの本質の人間性はとても深く優しいです。だからあなたとの文通がこう長く続いているのだと思います。私はあなたの本当の人間性がわかります。そして孤独を感じたらいつでも

も手紙をくださいね」と。こんな優しい言葉をいつもこんな私にかけて下さっていました。暴力団組織に属するこんなやさぐれた人間にとっても深い優しさを与えてくれました。

私はこの頃F刑務所に収監されていましたが出所してからOさんとは文通を続けさせてもらっていました。そして私は出所してからこのOさんとの文通がきっかけとなり、思い切ってそれまで属していた暴力団組織から足を洗い組を抜けました。抜けるのは簡単ではありませんでしたが、私はその道を選びました。そしてOさんはこう言ってくれました。「あなたが選んだ道はきつと正しいと思います。私はあなたの進む道を心から応援します。」と。私はこの方のおかげで暴力団組織を抜ける決心がついたので。Oさんとはトータ4年6ヶ月程文通を続けさせてもらいました。できる事ならOさんとはずっとずっと文通を続けたかったです、それはもう叶わない遠い夢となってしまいました。Oさんは、4年前の6月3日に天国へ旅立たれました。その報告は初めてマザーハウススタッフ様から私の所へ連絡があり知らされました。そして次にOさんの息子さんと娘さんからマザーハウス事務局を通して私の所へ連絡があり、こう言われました。「長い間文通を続けて下さり心からありがとうございます。母は文通を心から楽しんでいました。本当にありがとうございます。」私はこの手紙を読んだとき涙が止まりませんでした。Oさんはもうお本当にいなくなっ

しまったのだなという実感がわいてきて悲しくなってきました。Oさんは癌という病と闘いながら病院のベッドの上で時間をつくっては私に手紙を書いてくれていたそうです。Oさんは私に「今ちょっと体調を崩して手術のため入院しています。簡単な手術なので心配しないでくださいね、元気になってすぐに戻ってきます。」と私にはそう言っていました。私が心配しないように。

Oさんは病氣と闘いながら私と文通を続けて下さっていたんです。Oさんはある時病院からこんな内容のお手紙を私に書いてきたことがあります。「Nさん、私は今ちょっとした病氣と闘っています、ないとは思いますが、万が一私にもしものことがあって病氣に負けてしまっていないなくなってしまっても、私はずっとあなたのことを見守っています、ずっとずっと忘れません。」と。Oさんは闘病生活に入って病院から書いてくださった手紙の字が乱れ始めていましたが、そんな苦しい中でも必死に私に手紙を書いてくれたのです。Oさんからいただいた手紙は大量にあります、今でも大切に保管してあります。Oさんとの思い出の日々を手紙を読んで思い出すと涙がわいてきます。Oさんには、消防士さんの息子さんと看護士さんの娘さんの他に小さなお孫さんが5人いますが、まだまだ小さなお孫さんの成長を見守りたかったように、まだまだ生きて大好きな旅行に行きたかったように、まだまだ生きて大切な息子さん、娘さん

とお孫さんと一緒に過ごしかつたように。どれだけの想いを残して天国へ旅立たれてしまったのかとOさんのことを想うと胸が苦しくなります。Oさんは私の母と同じ59歳という若さでしかも病気も同じ癌という病名です。私の母も59歳という若さで他界しました。驚くことに私の母とOさんは他界した病名それだけではなく他界した月が6月というのも同じ、そして生年月日まで同じなのです。そして同じクリスチャン。どうしても母と重ねてしまいます。息子さん、娘さんに聞いて知ったのですが、Oさんは担当医師から余命宣告を受けていたそのなのですが、その自分の命がそう長くないと知らされたからの日々をどのように過ごしていたのか、その事は私には隠してずっと私と文通を続けてくださったOさんの気持ちを思うととても胸が痛みます。私は暴力団組織に属していた頃、汚れた世界ばかりだったので誰も信じることができなくなってしまっていました。このOさんとの出会いで自分が少しずつ変わっていききました。

Oさん、あなたが私に与えてくださった深い深い優しさや光、これからもずっとずっと忘れません。毎週水曜日の夜9時一緒に祈り合っていたこと、今も忘れずあなたを想い祈り続けています。Oさん、本当に心からありがとうございます。私はMLP文通に参加させてもらい様々なことを学びました。そしてそこから少しずつ自分が変わっていったような気持ちです。MLP文通でOさんとの出会いがあり、この私にとってはとても深い思い出を記させ

ていただきました。この思い出をつくってくれたのはマザーハウス様のおかげです。本当にありがとうございます。これから先もずっとマザーハウス様の活動を応援し続けます。ありがとうございます、感謝です。

文通をはじめて

Jさん

私を会員として受け入れてくださったことを嬉しく思いました。私の心から感謝を申し上げます。私は日本語があまり上手ではありません。私が知っている日本語の単語は少ない為説明が不十分なこと、私の勉強不足、未熟さ、そして失礼をどうかお許し下さい。文通相手のNさんからお手紙をもらいました。大変嬉しく思いました。私にはとても分かりやすいようにお手紙が書かれてありました。私に手紙を書くために私の母国であるスリランカのことや色々勉強をなさったことを知り感心しました。私のことを気遣って下さって心の支えになるようなお手紙でした。とてもいい方と文通できる機会を与えてくださったマザーハウス様に感謝します。ありがとうございます。文通することで私の日本語も上達できればいいと幸いに思ったりします。私の心が楽になった気がします。お手紙本当にありがとうございます。マザーハウス様の皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

死刑制度について

プリズムさん

たより108号のドブネズミさんの「私達が出来る事」について感想と意見を端的に述べたいと思います。ドブねすみさんが熱く語られていた意見の中で少し触れられた死刑制度廃止についての10行足らずでしたが、その文章について、私はそれは被害者遺族に配慮した内容だとは思えず、死刑制度を語る上で遺族の感情を十分に考えられたのでしょうかと、疑問に思いました。文中、「死んで、殺して罪を償う遣り方は更生に繋がらない……」などと書かれていましたが、生命刑で死刑とは、どうしても加害者には更生をすることが見込めないと断言しているのではなかったのでしょうか。もしもよく理解されているならば、加害者には改善の余地なしとされることや、またそれでも更生を見込める理由などを意見として確りと書く必要があると思います。それは無責任な発言を慎み、失礼のないようにすることにもです。また、「被害者の感情は治せるのだろうか？」と思う。被害者遺族の心の傷は一生消えない。ならば刑務所という空間で生き……遺族に謝罪する方法をとった方が双方の為になると私は考える」などと書かれています。謝罪についても遺族の多

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -



くがどう思われているのかなど、これもご存じならば、その事も確り書かれるべきだと思います。加害者と会うこと、謝罪や手紙を求める遺族は求められるかもしれません。しかし、加害者側には、控訴・上告する事なく、刑の執行を望まれる遺族もおられるのではないのでしょうか。単に「双方の為に」とは、何を根拠に書かれたのか解らず軽率ではないかと思えます。※常識で良いとされない、人の死を訴え望む遺族の心中をどのように考えておられるのかと……

私は現在、日本の絞首刑の惨いやり方や、法によつて人が人を殺すという事については、死刑囚や被害者遺族のことだけでなく、刑を執行する職員のことや冤罪のこと、また宗教的観点等の議論を学び熟考しては、私なりに「反対」するべきだとは思っています。しかし、仮に自身の最愛の人、妻や子を犯され残忍な殺され方をしたとすれば、私はその加害者をどうしたいと思うか、ということとです。軽々しく発言せず、考慮し発言する必要があると思います。私意主張に偏ったりしては、浅はかになり、人の心を傷つける事にもなると思います。ドブねすみさんが書かれた事に私がこの様に思うことを不快に思われたり、誤解などの意見がありましたらご教授ください。私と同じ様な思いを持たれた方やご批判等も頂ければ自身のためにもなりますので宜しくお願いいたします。

「刑務所の処遇について」

カイジさん

たより108号のM刑na2さんの「刑務所の処遇について」ですが、ここでまず考えなければならぬのは、「国家を見る時は位の高い人への扱いではなく、最も位が低い人への扱いを見る必要がある」ということです。ここでの「最も位が低い人」とは、単に低所得者や受刑者などではなく、娑婆であればホームレス、刑務所であれば懲罰者や調査中・病棟患者等を指します。私は幸い懲罰を起すことなく過ごしているので、懲罰者がどんな扱いをされているのかは知りませんが、つい最近、コロナに感染し、病棟に隔離されました。その結果、最下層の人間を扱われ方を知りました。

結果から言うと、とても人間扱いされているとは言いがたい状況でした。PCR検査で陽性だと判断されるとそのまま病棟に押し込まれ、8日間独居に隔離される。その間はテレビも見れず、風呂にも入れず、あげくの果ては休日すら夕食後まで読書禁止というものです。私のコロナ感染が発覚したのは4月30日なので、ゴールデンウィークの3日〜6日は平日も同じように朝食を食べて



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。

から夕飯までただ寝ることしか許されない、苦痛としか言えない状況です。また、隔離中に何か治療でもしてくれるのかと思いきや、治療は一切なし。また、それまでA食を食べていたのもC食に減らされ、隔離中に体重が5キロも落ちてしまいました。今まで鍛えてきた筋肉がみるみるうちに痩せていく様は衝撃でした。途中、5月2日にはどこも悪いところは見当たらなかったため、職員に「もう一度PCR検査を受けたい」と言つと、「あなたの解除日は8日だから」とバツサリ。結局、身体は臭いし何もできないしと何度か発狂しそうになりながらも無事に8日を迎え、医務へ向かうと、「症状無いなら工場戻りね」とPCRなしで解放。少々雑過ぎると思いつつも工場へ戻る準備をしていると、少しずつ身体が重くなってきました。一気に体重が落ちたせいで体力までなくなってしまう様です。なんとか工場に戻ると、更に異常が発覚します。8日間人と話してなかったせいか、同囚と話すときに言葉に詰まるのです。普通に話そうとしても言葉が出てこなかったり、何を言いたいんだっけ?と思ったり。隔離の副作用が思わぬ形で発現しました。

人間が壊れるには1週間以上人から隔離して、家畜のような扱いを受けさせれば良いみたいです。私は今まで無事故・無違反で、担当刑務官と

も良好な関係を築いていたため、こころした対応とは無縁でしたが、いざ落ちると落差に驚きます。

長くなりましたが、いくら刑務官にカメラを付けようが、受刑者への「さん」付け呼称を実施しようが、刑務官全体のメンタリティーが変わらなければ意味が無いのです。また、上の人間が受刑者をゴミの様に思っていたら、それは現場の職員にも必ず伝播します。良い例がビッグモーターでしょう。では、上の人間を変えればいいのかと言っと、恐らくそうでも無いでしょう。上の人間の意識を変えようと同時に、我々受刑者の意識も変えなければ、恐らく刑務所という施設の根っここの部分は変わらないと思います。ひねくれてしまった受刑者も当然いるので難しいですし、そもそもどういふ風を意識を変えていくかも難しい問題ですが、私は出所した受刑者が社会で活躍することが、一つの解になるのではないかと見ています。そうして活躍した元受刑者が「そろそろ刑務所も変わる必要があるんじゃない？」と後ろからプッシュすることが、官が重い腰を上げる要因にもなり得るし、社会で活躍する元受刑者を見て、「なんだあいつができるなら俺もできるじゃん」と思い直す受刑者もいるのではないのでしょうか。

因みに、na2さんのデータを5年間保存できるのか、という疑問ですが、今のテクノロジーなら簡単にできると思います。動画も大きな音がした時や衝撃を受けた前後5分を自動保存するとか、動画の内容をAIによる文字起こ

しさせれば保存は可能です。問題は、常時保存であればAIによる文字起こしで文書保存になると思いますが、新しい物に及び腰の官がPHSから大ジャンプして最新テクノロジーに手を出すかということでしょうか。

最後に、理事長挨拶に書かれていた、ノルウエーの刑務所には逃亡防止の柵がない、という点ですが、これは受刑者に働くインセンティブを経済学的な観点から分析した素晴らしい施策だと思えます。ただ、この施策を日本でも実現するにはいくつものハードルがあります。まず、前科者の社会的信用が皆無であること。日本人が元々ネガティブ思考寄りであること。官の腰が重過ぎること等。いずれにせよ、受刑者から変わることが近道だと思われれます。ネガティブ思考の国で社会からの信用を得るためには、エビデンス（証拠）を示した上で社会的成功をおさめた信用ある元受刑者からの後押しが必要だと思えます。最初は一部で実験的に行い、徐々に実装していく形が日本には合っているのではないのでしょうか。私は今年中の出所が見えている状態なので、出所者からのアプローチとして外から社会と政府に対して提案していこうと思えます。



マザーハウス卒業後

就職してからの心情と心境

Mさん

私はマザーハウスでスタッフを経験したのち、現在は一般企業で社員として生活を始めている者です。本当は希望だけ書ければ良いのですが、迷いも含め、心境レポートとしてありのまま現状報告したいと思います。まず、結論だけ先に書かせていただきます。今の私を後押ししてくれるもの、原動力についてです。それは「ありがたい」という感謝が、概念でなくハッキリとした「事実」として認識できてしまった実感、状態から来るものです。いざ書き始めようとして自分で驚いたのですが、実は、ここで何も特別に語れるものがありませんでした。正確には、考えれば考えるほど全てが当たり前の事すぎて、どうしてもこれは伝えたいというような大きな衝撃や変化等の実感がありません。良いことも悪いことも、いつでも私の本質はあまり変わっていないからです。現在の状況が何であれ、私は、(そして等しく同列に括弧することを許していただきたいのですが「私たちは」)どうしようもなく愚かな存在だと思いません。それでもかけがえのない存在である事をひそかに願っています。ですが、それは、「ここで書くことではありません(罪とも同義であることは誰もが理解しているはずですが、極論ではなく、私は刑務所の中にいようが外にいようが、

定職に就いていようが就いていなかろうが正直、大した差はないと考えています。それに応じて人や社会との接し方や接され方、繕い方や繕われ方など関係性の違いは生じてきます。しかし、それが根本的な何かを変えてしまふほど人の性質や性格は脆弱ではないと思いますし、同時に、何か変わった気がしてきってしまうほど脆弱であるとも、逆に思います。どちらにせよ大した話ではありません。善悪も基本は便宜の別名ですし、その枠内の評価基準に合致するか否かの違いでしかないと思います。とにかくその時その時の自身の状況下で、肉体的であれ精神的であれ何かに悶え苦しみながら、無理矢理にでも笑って生き延び続けねばならない事に、変わりないと思います。おそらく、私たちが自我を持った瞬間からずっとそうだったのではないのでしょうか。意外という用語弊があります。周りからの見え方は全く違うようです。ある一定の条件を満たす事で最低限の社会的評価は与えられます。そもそも誰もが普通に行っているような事に、積極的な価値などあるでしょうか。普通というのは社会的には、様々な免罪符になっていると理解こそできますが。しかし、言ってみれば「たかが」そこに合流するのに、自分ひとりの力ではどうにもならなかった、多くの人の温かさに支えられてようやく可能になったという事実の重たさにも、気付きます。必死に喰らいついていく事が礼節だとも自覚できます。

私の性質で言えば、何かにつけ物事を後回しにする悪

い癖は相変わらずですし、部屋も気付けば散らかし放題です。もちろん仕事でそのような姿は決してみせませんし、休みを返上しても滞りない業務遂行に心血を注ぎます。信用してもらったからにはそちらの面で崩れるわけにいかず、寝ても起きてても今は仕事のことばかり考え、実際に費やす時間も相当に増えました。きっと誰もが経験している事で、やはりそれ以上でも以下でもないのですが、その当たり前の状況下に入って気付いた事も多いです。例えば、与えられたものを人はこなそうとしますが、向き不向きは当然あります。どれくらい適応できるのか、継続できるのかできないのか、結果が出るのか出ないのか。もし陸で暮らしている生物に水中で狩りをする、あるいはその逆に、海で暮らしている生物に山菜を集めると言ってみたくらで、仮に拙く身につけても負けは確実です。もともとの近い環境に帰したほうが明らかに成果は上がると思いますし、明らかに呼吸がしやすくなり、能力も上がったたり勝手に補正されたりします。自分としては同じことをしているつもりでも、場所が変われば急に光が見えてくる事があります。しかし、そういう勝負所をかつての自分がどれだけ分かっていたのか。同じ物事に、状況にありがたみを感じる事が出来たのか。苦しんだら苦しんだ分、余計に感じとれる能力は上がります。闇の中にいたから、光の尊さがはじめて理解できる部分はあると思います。今、あるいはこれから恵まれている事、もしくは今までが恵まれていた、と

いうような事に気付けるか。受刑生活に限らず普通に社会にいても、いつどこであつても、生きていくうえで避けられない逃がれられない状況というものがあると思います。良い環境や状態というものを理解し感謝できるのは、かつてそうでない事を経験し、そこで不格好に格闘し、失敗を繰り返して負けてきたからだとも思います。一連の様々な経験に関して、私は時間の無駄だったと今でもハッキリ思う事があります。しかしそれがなかったら私は、もっと多くの物事をこれから無駄にしていたと思います。何も分からずに。どこにいても何も変わらないし、どこにいても何かは変わると思います。ただ全ての状況を、自分の責任で引き受ける覚悟を持つという事が大切だと思っています。実際に何が原因であつたとしても関係ありません。そこではじめて、人は自由に動ける気がするのです。自分を縛ることしか自由は存在しないのでは。それはきつと楽しい事でもあります。また、ちょうど良いのだとも思います。必ず、自覚なく何らかの責任は見落とし、あるいは気付いていても取らずに済んでいます。そしてどこかに押し付けてもいます。どれだけ重荷を背負ったつもりでも、背負いきれなくなる前には既に幾つも幾つもこぼれ落ちていきます。自分の不得手が許されてしまう事も多々あります。本当はすごく愚かなのに。最近では自分にも世界にも、昔ほどの深い憎しみというのを感じなくなりつつあります。もう少し、私も頑張ってみます。

ちかみおしお「ナー」

時かめ種は生えぬ

1 路傍伝道

久しぶりに路傍伝道に参加しました。場所は上野ア×横入口の人通りの多いところで、何人かのチームのうち私はマンガミッション（聖書のダイジェスト版）を手渡して配布しました。今の時代、なかなか受け取ってもらえませんが、中には興味のある通行人の方からやって来てもらってくれる方々もいます。

1人目は50代の男性で、「キリスト教を信じたらどんなメリットがあるのか?」と挑戦してきました。「キリストを信じたら永遠の命を持つ神の子となり、体が死んでも霊としての自分は天国に行けますよ」と答えると、「ほう、それはいいね。このままの自分が天国に行けるのか?」と聞くので、「いや、あなたの理想的な若さと男らしさを持って天国に行くのだと言われています」と言つと、「それは凄い、そのマンガをもらえるかい?」と一冊手にして笑顔で去っていき

ました。

2人目は近寄ってきた20歳前後の中国人留学生で、私からマンガミッションを受取ると、「中国語か英語が通じる教会がありますか?」と片言の日本語で尋ねてきたので、大久保の淀橋教会（「中国語」と渋谷の東京バプティストチャーチ（TBC）（「英語」）を紹介しました。翌朝、「これからTBCに行きます。謝謝」というショートメールが彼から届きました。



Tatuyaさん

2 蒔かぬ種は生えぬ

日本のクリスチャンがなぜ増えないのか？長年にわたり福音の伝道をしながら考えてきましたが、数年前に一つの結論に到達しました。それは、「①蒔かぬ種は生えぬ、②少ししか蒔かない者は少ししか刈り取らない、③多く蒔く者は多く刈り取るようになる」という聖書の原則です。(II)「リント9・6」

日本人の99%が未信者であると言われるのに、ほとんどのクリスチャンが外に出て行って積極的^①に福音を伝えていません。福音の種が少ししか蒔かれていないのです。結果として、教会に導かれてくる未信者が少なく、牧師、信徒の高齢化に伴い、統計的にも日本の教会は近い将来に消滅していくであろうと言われています。

路傍伝道は、多くの道行く人々に福音を語りかけ賛美をもって人々の知性や感性に訴えていきます。立ち止まって聴く人は少なくても、通り過ぎる人々の心に福音の種が蒔かれています。

SNS、特にYouTubeやTwitter等、によりインターネットを通じて未信者に福音を伝えている人たちもいます。しかしまだ、多くの未信者に福音の種が蒔かれているとは言えません。

私はマンガミッションを中心に未信者に読みやすいトラクトや小冊子を100万冊を目指して毎日こつこつとポストイングを続けています。こうして未信者に直接に福音を届け、多くの人たちの心に福音の種を蒔いています。読んだ人が、「聖書に興味を持つように」、「教会に導かれるように」、「クリスチャンとの交流ができるように」、「キリストを信じて救われるように」と主が導いてくださると信じつつ。

ささき みつお（弁護士）

看護師 中谷先生による 健康相談窓口

皆さんこんにちは。6月に入り、いよいよ夏が近づいてきましたね。連日日中は30度を超え、すでにくたばってしまっています。ちょうど、野菜づくりを始めて2年目になりました。先日、玉ねぎ、じゃがいも、ズッキーニ、にんじんを収穫しましたよ。皆さんにも、有機栽培で作った野菜たちを食べて欲しいものです。野菜などの成長に触れていると、その力強さに励まされますね。野菜たちの生命力に癒されながら、家庭菜園も楽しんでいきたいと思っています。土日の日中、畑活動をしていますと、頭がクラクラ、ふわふわしてきます。これはすでに熱中症の症状です。皆さんもこれから、熱中症で倒れる時期に突入していますので、のどが渇かなくても定期的に水分の補給をお願いします。

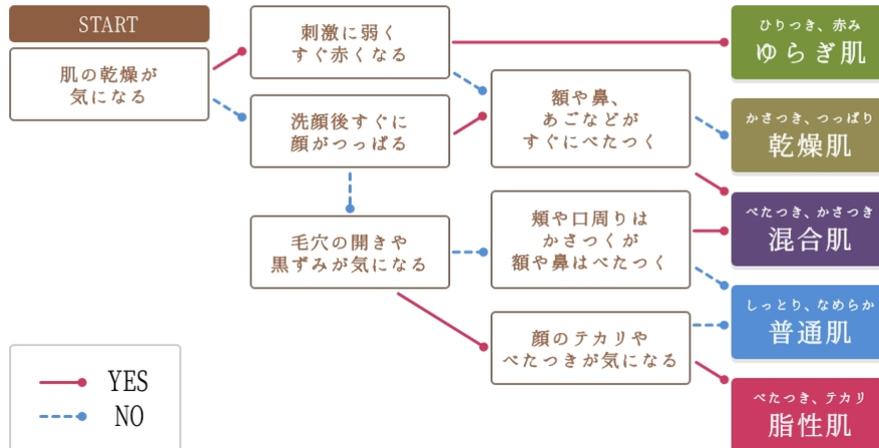
皆様のおかげでアンケートが続々送られて来ています。送ってくださいました皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。まだ統計をかけるには少ないので、まだアンケートをご返送いただいていない方はご協力よろしく願いいたします。

今月は、洗顔についてお話していきたいと思います。近年、男性もスキンケアに気を遣うようになりました。本学部学生たち（男子学生9割）を見ていると、昭和の時代とは異なり皆さんとてもきれい？なイメージがあります。偏見を恐れずに言いますね。ニキビ跡もあったり、肌が荒れていたりする方も中には見えますが、多くは肌も整えられ眉毛までもきれいになっています。これから、卒業される方もみえると思います。この機会にご自身の肌にも目を向けてみてください。

では、まず皆さん、自分の肌はどのような感じですか？
1日何回洗顔していますか？どのように洗っていますか？
施設内で、洗顔フォームはどの程度認められているのでしょうか？石鹸のみですか？
化粧水までの使用は難しいと思いますが、これから男性も肌を手入れしていく時代になります。是非、知っておいてくださいね。



メンズ肌タイプチェック



<https://www.wamiles-winds.co.jp/topics/skincare/20220616.html>

<普通肌>

肌の水分量・皮脂量のバランスが取れた肌タイプです。この状態を保持すると良いですね。

<乾燥肌>

肌のキメが細やかで、皮脂量が少なくカサつきやすい肌タイプです。洗顔後に肌がっぱりやすく、シワやシミがしやすいのも特徴です。可能であれば化粧水で補ってあげて欲しいです。

<混合肌>

複数の肌タイプが混在しているタイプで、多く見られるのが乾燥肌+脂性肌のタイプです。おでこや鼻など皮脂分泌の多いパーツはベタつきやすいのに、頬や目元、あご先などは乾燥しやすいのが特徴です。皮脂が目がいきがちですが、水分を補うケアが必要です。皮脂が多い部分は実は乾燥を起こしていることにより、より脂が出ています。

<脂性肌>

肌の水分量・皮脂量どちらも多く、汚れがつきやすい・ニキビがしやすいなどの特徴があります。洗顔で使用する石鹸をしっかりと泡立て、ごしごし洗いではなく、泡でやさしく汚れを落とすようなイメージで洗顔をしてあげてください。

<ゆらぎ肌>

紫外線や乾燥など外部刺激から肌を守る「バリア機能」が低下し、肌が過敏になっている状態です。赤みやヒリつきが出やすい、デリケートな肌タイプです。

福音たより

■カトリック麹町教会(聖イグナチオ教会)より許可を頂き、ホームページのミサ説教を原文ママ転載させて頂きます。

山内豊助祭

三位一体の主日

今日は三位一体の主日です。皆さん三位一体ってい
うとなかなかイメージがつかないと思います。私も
分かったような分からないような感じがします。私
が初めて三位一体という言葉聞いたのは、20
歳ぐらいの時に小泉純一郎さんが「三位一体の改
革」っていう改革を出された時に、三位一体って
いう言葉があるんだって初めて知りました。三位一
体の改革っていうのは、三つの改革を一体として行
うっていうものでした。その使い方が正しいかどう
かは私には分かりませんが、三位一体という言葉
は1500年ぐらい論争が続いていた概念です。今
日は、もっとシンプルな話をしたいと思います。

私は三位一体って聞いて、まず心に残っているフ
レーズがあります。「父は創造し、子は救い、聖霊は
導く」という言葉があります。これは三位一体につ
いてよく言われるフレーズです。ですが、誰が言い

出したか分からない
ですけど、結構教会の
中で使われたりしま
す。この言葉は三位一
体を黙想するのにとて
も優れたフレーズだ
と思います。でも注意
が必要です。「父は創
造し、子は救い、聖
霊は導く」という言
葉。父は創造しかやら
ないのか、子は救いし
かやらないのか、聖霊

は導きしかやらないのか。父は他のことをやらない
んですか？そういうことを考えることもあるんです
けど、実際これはみんな、みんなというか、三位
一体の神としてそれを行います。だから「父は創造
し」って言うっていても、子も聖霊もその創造のわざを
行います。ただ、その父、子、聖霊の働き、創造、救
い、導きの働きを前面に押し出した時に、創造は父が
前面に立ってやってやっている感じがします。救いはイエ
ス・キリストが受肉されてこの世に来たっていうこと
ろが前面に押し出されます。今私たちが生きている
時代は聖霊の導きによって生きています。そういう
イメージが創造、救い、導きの各前面に出ています。



まず父なる神です。父なる神を思う時、私たちは創造の神秘を感じます。たとえば偉大な自然を見て、山登りをして頂上に立って周りを見渡して、父なる神の創造は素晴らしいと思ったり、小さい自然の世界、小さい虫とかそういうものを見て、この自然のハーモニーってどうか、調和をすごく感じて、父の創造の神秘を感じる時もあります。皆さんはジャズの曲で“The Very Thought of You”っていう曲知ってますか？ジャズで昔から歌われていて、ナット・キング・コールとかが歌って有名な曲なんですけど、そこにこういう歌詞があります。

I see your face in every flower
Your eyes in stars above
It's just the thought of you
The very thought of you, my love

これを日本語に訳すと「私はすべての花の中にあなたの顔を見る 上空の星たちの中にあなたの目を見る ただあなたを思っている、とてもあなたのことを思っている 私の愛する人よ」っていう歌詞なんです。私たちが創造の神秘に触れる時、そこに神を見る。父なる神を見る。それはまさにこの詩のように思うわけです。花を見たら神の創造を思い起こし、空を見たら父なる神の目を見る。そういう形で私たちは父

なる神の創造に触れることができます。他にも、たとえば芸術の作品があるとします。芸術の作品は作者の思いが現れています。私は今心理学の勉強をしているんですけど、描画法というものがあるんですね。たとえばバウムテストというのがあって、それは木を描くことによってその人、描いてもらったクライアントのその心が少しわかるっていうものなんです。やはり、そういうテストとかでも描いた人の心が現れるわけです。だからこの世界の創造の神秘を見る時に、神の、作者の思いが出てくるわけです。それは人でもそうだし、他の被造物でも同じです。

そして、子なるイエス。イエスを思い起こす時に、救いと切り離せないことに気づきます。皆さん、それぞれキリストに救われたということ、ここに集まっているとあります。救いがあったからこそ、ここにいます。その時に救いの主人公はイエス様だったと思い





ます。私も同じです。誰かから見捨てられた時、自分の人生は失敗したと感じた時、世界の中で自分はたった一人で存在していると孤独を感じた時。そういう時に私はイエスと出会ってきました。そういう辛い時、イエスと出会うと、まさにザアカイのように喜び踊る気持ちが湧いてきます。ザアカイというのは徴税人で、イエスを一目見たくて木に登った人です。「私はあなたの家に今日泊まることになっている」って言われて、喜び踊ったっていう彼ですね。私はすごくあの人の気持ちがわかって、本当にイエスに声をかけられた時、そのような気持ちになります。

もう一つは聖霊です。聖霊は風に譬えられます。聖書にこのように書かれています。「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこから来て、どこへ行くのか知らない」と言います。皆さんも聖霊の働きを感じたことがあると思います。心に風が立つ時、自分の心がザ

ザーツとなる時、そういう時があったんじゃないかなと思います。私のイメージで言うと、風がこう田んぼを撫でる時がありますね。こうザーツと目で見えるような形で。あの感覚が私の心の中に時々出てきます。それをよく見る時に、この風は自分をどこに導いていこうとしているんだろうかと感じます。皆さんも同じ体験があるんじゃないですか。たとえばカトリックで洗礼を受けようと思った時、私の心はザーツと何かに導かれるようにして洗礼を受ける。私なんかはイエスズ会に入ろうと思った時も、ザーツと風が吹いた感じがしました。私の心の中に何か強い働き、風が吹くってこういう感じがしました。そのザーツということが私の心の中に起きる時、私は聖霊を思います。聖霊がどこかに私を導こうとしている。そのように感じます。

このように「父は創造し、子は救い、聖霊は導く」という言葉は、三位一体の神を黙想する時にとっても役に立つフレーズです。ぜひ良かったら、皆さんも神に思いを馳せたい時に「父は創造し、子は救い、聖霊は導く」という言葉を思い出していただけならいいなと思います。

関根悦雄 神父

復活節第6主日

今日のみ言葉のテーマは明白です。「神は愛である」。そして私たちには「互いに愛し合いなさい」。これはイエスの言葉、イエスの命令と言ってもいいでしょう。問題は、私たちがそれをどのように受け止めて、実行していくかということだけだと思います。今日の福音で「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」と言いました。この福音はヨハネ15章にあるものですが、イエスはすでに最後の晩餐の席で弟子たちの足を洗い、



そしてその後で「わたしはあなたがたに新しい掟を与える」と言っています。「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」と言われた。これが新しい掟なんです。今日のところでも何度も繰り返されます。

ヨハネのこの手紙、

「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」。イエスは私たちに模範を示してくださいました。そして、愛が何であるかを具体的に示してくださいました。それは、最終的に自分自身の命も含めて、全てを私たちのために与えたということです。それは十字架につけられて殺されることになりましたが、それです。自分の身にあるものを全て差し出す。これが愛の本質です。もちろん私たちは全部を差し出して、何もかも、命までも、それは今のところ難しいかもしれませんが。しかし歴史を見るならば、今日のこの福音にもあるように「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」とあります。イエスは私たちを友、私たちが愛するから自分の命を十字架上で捧げてくださった。このイエスの愛を知った者は、その後この愛を実行しようと歴史の中でしてきました。日本でもそうでしょう。たくさん殉教者が生まれましました。苦しめられても、最終的に命を取られても、私は人々を愛します。神の正しい、神の福音を告げ知らせます。そのように生きたんです。この「友のために命を捧げること」。今、皆さんも最初に思い出すのはおそらく、もしかするとコルベ神父のことかもしれませんね。そんなに親しい人ではない、その人が殺されることになった。その人の悲しみを見て、私は代わり

になります、と自分自身を差し出した。これですよ。



私たちは命を差し出すところまで行けるかどうか、これは私たちの信仰の深さにかかっていると思います。私たちは自分がこの神の愛で満たされていないと、なかなかそれはできないと思います。神の愛に満たされるように、私たちはこのミサに与っています。ミサの中で私たちは、キリストの体を、命を受け取ります。聖体拝領とはその意味です。キリストの命を受けて、私たちが一人ひとり神に愛されているということとをそこで確認し、私たちも、私たちの周りにいる愛が必要な人のところに行って私たちを与える。これはね、具体的な愛の形というのは決められません。色々あります。そして人によって、別に偉大なことを考えなくてもいいと思います。でもこの愛の行為の原型

として、イエスは最後の晩餐の席で、新しい掟を与える前に弟子たちの足を洗ったという、そういう行為をしたんですよ。この弟子たちの足を洗うというのは、僕（しもべ）の、奴隷

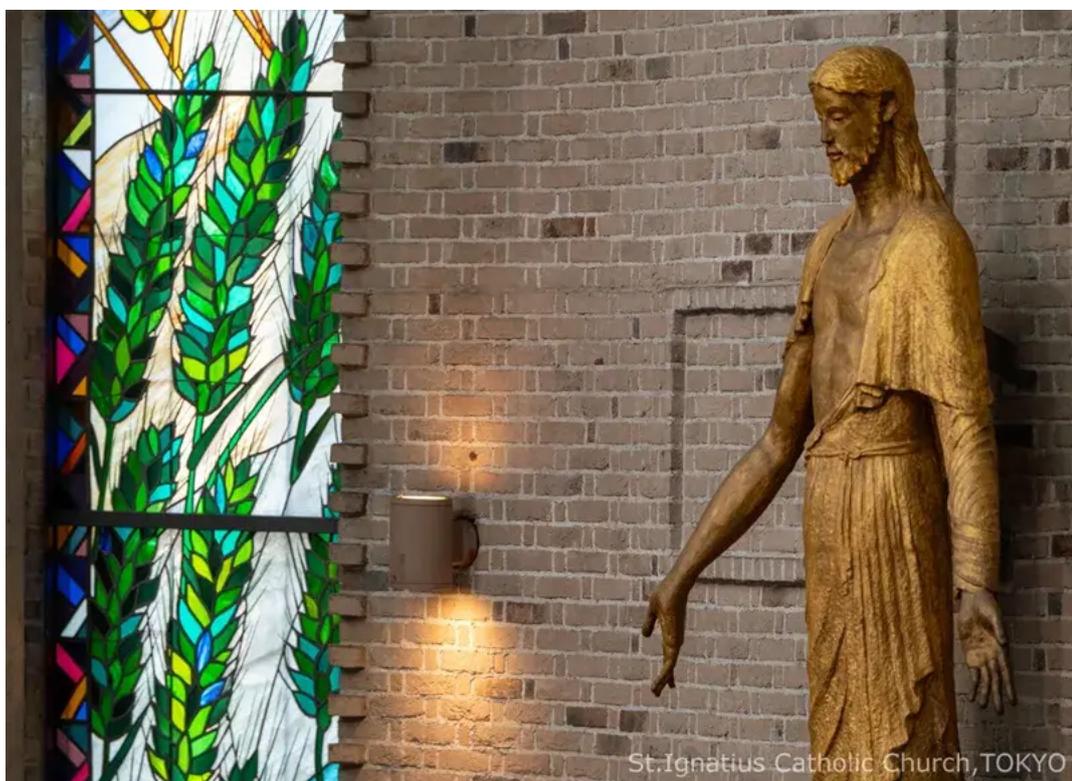
の仕事でした。先生である者が身を低くして弟子たちの足を洗った。ここに愛の本質がある。それで互いに足を洗い合いなさいと言った。そして、互いに愛し合いなさいと命じたんです。私たち、誰もこれを忘れていないでしょうね。私たちにとって唯一の掟は、互いに愛し合いなさい、これです。ところが残念ながら、今の世界はこの愛と反対のものが満ち満ちていると言わざるを得ない。自分だけ、人は関係ないとか、さらには人から奪っても自分が豊かになるとか、そういうことを目指して生きている人もいるわけです。その極端な形が争いとか戦争につながっていくと思います。そういう中で、本当に愛を支柱としているのは誰か、というのを見極めるのも大切なことだと思います。

皆さんは自分自身がまず、愛されていると思いますか？事実を申し上げましょう。一人ひとり今ここに存在しているということは、愛されたということ



St. Ignatius Catholic Church, TOKYO

す。もし小さい時から愛がなかったら、生存できないんですよ。家庭で生まれてたら、何も人間的な愛を示されずにただ食べ物だけ与えられても生存できない。私たちが今生きているということは、愛されてきた。もちろん人によって十分かどうかはありまされども、しかし生存できるだけの愛は受けてきた。そして私たちは、もっともつと愛を受けよう、これも願ったらいんじゃないかと思います。私たち、愛するために愛されるように、もっともつと愛されるようにと言って愛されるようになると、人を愛することももつとできるようになる。人を愛すれば愛するほど、また人からも愛される。これが普通だと思います。私たちがそういう生き方をして、今の社会、日本を含めて、分断とか愛に反するものが強く働いている、そういう面があります。そういう中で本当の愛を示していくこと、自分が低くなって人の足を洗うこと。これをしていくことができるように、そういう恵みを今日は一緒に願いましょう。



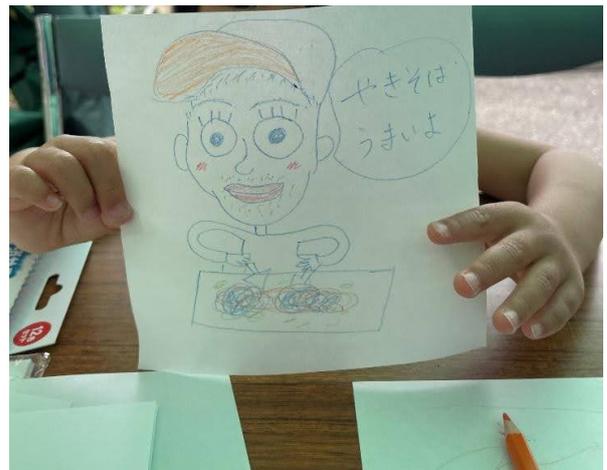
St. Ignatius Catholic Church, TOKYO

HAPPY DAYS

約7年前にマザーハウスで出会ったシングルマザーのご家族がG.Wに泊まりにきてくれました。当事者Kさんも一緒に参加してくれて、一緒にゴーカートに乗ったり、湖で足漕ぎボートに乗ったりしました。小学生男子二人はKさんの自宅に泊まりました。お父さん一人の二家族、きっと珍しい状況でした。週末に子供達がKさんの自宅に泊まりに行くことがあるので、車で送って行くのですが、別れた夫婦が週末、子供だけお父さんのお家に泊まりに行っているという設定を勝手に思っています。(笑)

日曜日には教会でバザーがありました。Kさんは教会の人達と一緒に一生懸命焼きそばを作っていました。お顔は見せられないので、似顔絵を描きました。(下記写真)

ある日、当事者Mさんから、事務所に私宛の荷物が届いていると連絡がきました。自宅に送ってもらうと、大きい段ボールに、大容量の駄菓子とお菓子、ブロックやお砂遊びセットのおもちゃなどが沢山入っていました。なんと、受刑者さんが送ってくれました。その他にも、本を送ってきてくれた方もいました。いつも皆様の優しいお手紙に、愛の充電をしています。ありがとうございます♡



文通ボランティアさんへ

天涯孤独が多い受刑者さんにとってお手紙がくることは大変重要です。ボランティアさんからお返事がこなくなり、ショックをうけている受刑者さんが少なくありません。ご多忙等で、お返事が書けない時は、その旨をお葉書に書いて出していただくと幸いです。また、不快な思いをされた場合は事務局にご連絡を下さい。

受刑者の皆さんへお知らせ

- 移送・出所される方は必ずご一報下さい。MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。
- お問合せが多い内容（例：文通相手の追加を希望したのにまだ決まっていない等）は、返信にかえてお知らせ欄で回答させて頂くことがあります。毎月ご確認頂くようお願い致します。
- MLP ペア決め現状：ペアが決まっていない人を優先しておりますが、4か月以上お返事が届いていない受刑者の方は文通相手の追加を承りますので、「文通担当」宛にお手紙お出し下さい（お時間かかる場合があります）。
- 冊子 NEXT は寄贈終了、サインズは休刊に伴い、たよりへの同封が終了しました。
- フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用しない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう何卒お願い致します。
- 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84 円以上の切手のみ使用可）は、1 枚につき現金交換手数料 10 円がかかります。※郵便局の価格改訂に伴い、2023 年 4 月から手数料が 1 枚 5 円から 10 円に変更になりました。
（例）100 円切手× 5 枚の場合：
500 円－手数料 10 円× 5 枚分 =
受領額 450 円
- 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。
 - ・ 突然たよりが送られなくなった。
 - ・ 刑期（出所日）が変更になった。
 - ・ 入会申込書もしくは会費を送ってから 2 ヶ月が経過してもマザーハウスから何も届かない。
 - ・ 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料 800 円分が必要です）。
- たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。

編集後記 by 編集局

早くも一年の折り返し地点になりますね。現在「たより」発行は 2 ヶ月ごとですが、毎回あっというまに発行月がやってきます（笑）



マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）



製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

コーヒー（粉）200g …1188 円（税込）

コーヒー（豆）200g …1188 円（税込）

カフェドリップ 10g(1 杯分) …128 円（税込）

継続して購入・販売してくださっている皆様（順不同）

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会

ルワンダの祈り



ルワンダでは、1994 年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶



オーガニック
純スリランカ産セイロンティー

50g (2g 入り 25 袋) … 864 円（税込）

古本募金（きしゃぽん）

書籍やDVD を下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先：

〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

マザーハウス きしゃぽん係

TEL：0120-29-7000

* マザーハウス事務所への送付はご遠慮ください。

獄中 POST シリーズ

引き継ぎ作業中のため、一時的に活動を中止しております。再開次第お知らせ致します。

ご支援

正会員（一口5000 円／年） 賛助会員（一口3000 円）
社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

振込口座名：トクヒ）マザーハウス

郵便振替口：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

*info@motherhouse-jp.org 宛に内訳をご送付願います。

洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-18-1F

マザーハウス TEL：03-6659-2110

随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org

マリアコーヒー & マリアの紅茶のご
注文はウェブサイト・メール・FAX
にて承っております。

FAX：03-6659-5270



ご注文・支援詳細

マザーハウスたより 2024 年 6 月号

発行日：2024 年 6 月 15 日 発行責任者：原田 昇

〒130-0024 墨田区菊川 1-16-18-3F NPO 法人マザーハウス